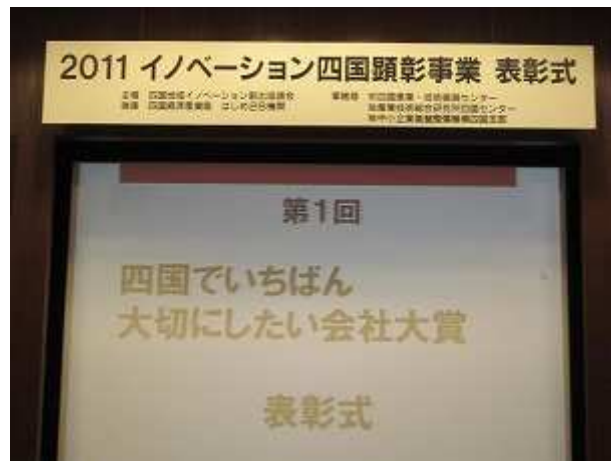


第1回「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」 受賞



本大賞の選考基準提唱者「日本でいちばん大切にしたい会社」著者：法政大学大学院坂本光司教授（写真左）とファースト・コラボレーション武樋泰臣社長

経済産業省所管の四国4県の独立行政法人や財団法人、大学など32団体でつくる四国地域イノベーション創出協議会（高松市）が、他社の模範となる特筆すべき経営を行っている企業等を表彰する、第一回「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」の表彰式が3月9日かがわ国際会議場でおこなわれた。受賞企業は3社。

高知県からは**ファースト・コラボレーション（高知市）が奨励賞を受賞した。**

同社は平成14年に創立され、現在高知県内の3店舗でアパート、マンションなどの賃貸仲介及び不動産管理業を展開している。社員全員の参画により経営理念を確立し、「社員一人一人が主役の会社」を目指してノルマ無し、歩合無し、命令無しのフラットで風通しのよい経営を実践しており、コミュニケーションとチームワークの良い企業風土が定着している。

また子育てサポートの充実にも積極的に取り組んでおり、働きやすい環境を整備することで社員の活力を生み出している。明るく笑顔と活気溢れる店舗を訪れるリピート顧客・紹介顧客も多く、加盟する全国ネットワークの顧客満足度調査では、同社のスタッフが全国一を含めて毎年複数上位選出されているほか、2年連続の最優秀店舗賞を受賞している。

「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」創設の背景

リーマンショック以降、産業構造の変化、従来の利益追求型経営の行き詰まり、豊かさの価値基準の変化など、日本の社会環境は激変し、企業にとっても一段と厳しい状況になりました。

しかし、こうした中であっても、経営理念をしっかりと立て、正しいことを正しく行い、立派な業績を上げている企業が少なからずあります。それが、雇用を守り、社員・顧客・地域を大切にし、多くの人々と社会から必要とされ、「大切にしたい会社」と思われている企業です。

本協議会は、これまで技術開発について成果を上げた企業の表彰を行ってきましたが、あわせて、人口減少や高齢社会の到来などの社会的課題が先行する四国において、上記のような、構造変化にもたじろがない、日本の将来を担う企業の在り方・モデルともなる企業を発掘し、全国に発信していきたいと考えました。そこで今回、技術革新にとどまらず、広く経営革新にも着目し、従来の「四国産業技術大賞」に加えて、「四国でいちばん大切にしたい会社」を表彰する制度を新しく設け、企業の活動全般を顕彰することにしました。

四国地域イノベーション創出協議会